

1. 科目名 (単位数)	生涯学習支援論 (4 単位)	3. 科目番号	EDTC2308
2. 授業担当教員	栗山 究		
4. 授業形態	講義、演習 (調査研究、グループワーク含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	<p>本科目は、社会教育主事資格および社会教育士の称号取得のための必修科目の一つであり、他の社会教育に関する科目の基礎編に位置づけられる。春学期に開講される「生涯学習概論」(2 年次以降)を受けて、社会教育主事に期待されている学習支援の理論・方法を発展的に学ぶため秋学期に開設する。受講に際しては「生涯学習概論」を修得済であることが望ましい。</p>		
7. 講義概要	<p>生涯教育・生涯学習は、時代の変革期における一つの挑戦であり、人類の新たな教育・学習を展望したものといえる。本科目では、「生涯学習」の基本的な概念を習得し、とりわけ学習者の特性について把握した後、学習者の主体的な学びの支援方法について解説するとともに成人教育の意義とあり方について理解するよう授業をおこなう。</p> <p>生涯学習では、学習者が主体的、自律的に学習活動に関わり、学習目標、学習方法を自己決定していく自己主導的学習を促すことが求められる。つまり、参加型学習は一人ひとりの参加意識や学習動機が大切であり、特に施設や学習環境など条件を整備し、少しでも学習目的に近づけるよう支援者の適切な助言を必要とする。専門的教育職員として継続的な学習プログラムの提供に関する基礎的な知識も習得できるように授業を展開していく。</p>		
8. 学習目標	<p>生涯学習に参加する学習者には、個人が学びへの関心を高めることもさることながら、ボランティア活動や地域の趣味、教養に関わる団体等の活動に参加し、自ら学ぶとともに他者の学習を支援するなど地域貢献できる人材として活躍することが期待されている。学習支援は、そうした人材養成に必要な基本的知識や行動力を実践に生かせるよう目標をたて、着実に学習成果があがるよう導いていく手法である。単にノウハウや手段を学ぶだけでなく、受講生一人ひとりが計画的な目標設定のもとキャリア形成に努めていただきたい。</p> <p>本授業を通じて受講生に求める目標は次の三点である。①生涯学習の原点が理解できるようになること。②参加・体験型の学習手法が実践的に理解できるようになること。③成人教育の理念・方法を身につけること。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>本授業では、①現代の地域課題解決 (持続可能な開発目標) に向けて実際に取り組んでいる地域の社会教育実践を背景に各受講生が考案した学習講座のデザイン (成人向け学習講座の企画書提出とその学習方法の体験)、②生涯学習支援事例の読み合わせ、③実際の学習講座の参画体験 (参画体験を基にした期末レポートを提出) が課題となる。初回の授業で提示する授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げていってほしい。</p> <p>いずれも受講者自身がレジメを作成・報告し、受講者相互に話し合いながら共同検討を行っていくため、それぞれの課題に向けては、各自の興味や問題関心に即して新聞記事・文献・実践記録を収集・整理する時間、生涯学習支援の現場に実際に参加・体験する時間が必要となる。また、クラス内での話しあい学習の内容を相互に理解しあっていくことが求められる。</p> <p>授業内容や共同検討で気づいたことを自分なりにふりかえる時間を自覚的につくり、配布資料は各自でファイルなどを用意してまとめておき、予習と復習に十分に活かしてほしい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b> 高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年 (2400 円+税)。 ※第 3 回から使用するため事前に用意しておくこと。 その他、各回授業テーマに応じて、担当教員が作成・編集した資料や学習記録を配布する。</p> <p><b>【参考書】</b>(1)『月刊社会教育』国土社・旬報社、1957 年～毎月刊行中。(2)鈴木敏正・朝岡幸彦編『社会教育・生涯学習論』学文社、2018 年。(3)朝岡幸彦・井口啓太郎・谷口郁子・飯塚哲子編『講座づくりのコツとワザー生涯学習デザインガイド』国土社、2013 年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本科目に対する基本的な知識が習得できたかどうか。</li> <li>2. 他のメンバーと共同してグループワークに取り組むことができたか。</li> <li>3. 課題を認識しつつ、自分の考え方をもちとことかできたかどうか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への取り組み姿勢、グループワークへの参加度、協力度 総合点の 30%</li> <li>2. 授業内での課題提出 (発表資料の作成、コメント用紙の提出) 総合点の 20%</li> <li>3. 期末試験 (期末レポートを含む) 総合点の 50%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>(1) 本授業は、主として演習形式で展開するので、授業内容の理解は、毎回の授業 (演習) に連続して出席することでより深まります。初回の授業で確認する授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げ、正当な理由なしの欠席や遅刻は控え、自ら授業をつくっていく心づもりで、主体的・積極的に授業に臨んでください。</p> <p>(2) 本授業の履修に際しては、生涯学習概論 (2 年次前期) で学修した専門的知見が必要となります。当該授業を履修していない、あるいは履修済の受講生が当該知見を獲得していないと判断される場合は、本授業の前半部分で、その程度に応じて同科目で学修する授業の復習を行います。</p> <p>(3) 受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じ、さまざまな現場を紹介していく機会も適時、設けたいと考えています。場合によっては、学外授業を実施するという可能性もありますので、授業時間内での実施が困難な場合は、受講生各位と相談のうえ、検討していきましょう。</p> <p>(4) 授業内の共同検討を踏まえ、可能な限り自分のくらす地域をはじめ、社会で展開される各種さまざまな講座や学びあいの現場に興味関心に向け、学習支援者という視点から、そこで学びあう様々な住民と出会い、そこでの学習者や学習者の学習を支える人たちとともに学習を深めていく機会をつくっていただく</p>		

	さい。 自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に応援していきたいと思います。		
13. オフィスアワー	個別での質問や相談等は、各回授業開始前・終了後の時間に対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 社会教育主事、社会教育士（資格・仕事・人事・現状）	事前学習	取得しようとする社会教育主事・社会教育士とはどのような資格・称号であるかを調べ、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、社会教育主事・社会教育士の置かれている現状や課題そして可能性を理解する。
第2回	生涯学習・社会教育とは（用語・概念の確認）	事前学習	生涯学習概論で学習した内容を復習し、「生涯学習」や「社会教育」とはどのような概念であるかを調べ、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、「生涯学習」や「社会教育」とはどのような概念であるかを説明できるようにする。
第3回	生涯学習支援の理念と構造（第1章前半）	事前学習	教科書第1章前半を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、生涯学習の必要性とその広がりを支える社会教育の関係を説明できるようにする。
第4回	社会とつながる主体的な学び合いの支援（第1章後半）	事前学習	教科書第1章後半を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、何らかの理由で学校教育を受けられなかった人びとを支える生涯学習の役割を説明できるようにする。
第5回	生涯学習者を育む学習支援（第2章前半）	事前学習	教科書第2章前半を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、生涯学習の知見から子ども・若者の発達課題、受講者自身も持っている学習の権利を説明できるようにする。
第6回	社会生活が困難な子ども・若者の学習支援（第2章後半）	事前学習	教科書第2章後半を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、生涯学習の知見から子ども・若者を取り巻く現代的な学習課題、具体的実践を説明できるようにする。
第7回	成人の学習を支える考え方（第3章）	事前学習	教科書第3章を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、成人学習者の特性、成人学習論が求められる社会背景、学習支援者のあり方について説明できるようにする。
第8回	生涯学習社会を志向した学び（第4章）	事前学習	教科書第4章を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、過去・現在の高齢者観の変遷、高齢者の学びに求められる支援の特性を説明できるようにする。
第9回	共生社会をめざす生涯学習支援	事前学習	事前配付資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、障害者の生涯学習政策と実践から共生社会をめざす生涯学習支援のあり方、諸権利を説明できるようにする。
第10回	生涯学習論の展開と学習の方法① 共同学習	事前学習	事前配布資料を読み、わからない言葉を事前に調べて臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、社会教育の方法として提起される私たちの学習のなかの「話し合い」の意義を理解し、あなた自身がこの先の授業展開で活かせるようにする。
第11回	生涯学習論の展開と学習の方法② 省察的实践	事前学習	事前配布資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、あなたの生涯学習に「ふりかえり」を組み込むことの意義を理解し、あなた自身がこの先の授業展開で活かせる

			ようにする。
第12回	生涯学習論の展開と学習の方法③ 状況的学習	事前学習	事前配付資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、「実践共同体」への参加過程をあなたの学習として捉えることの意義を理解し、あなた自身がこの先の授業展開で活かせるようにする。
第13回	生涯学習論の展開と学習の方法④ 書くことの意味	事前学習	事前配付資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、あなた自身が書くことと他の受講生が書いたものをお互いに読むこととの関係を理解し、あなた自身がこの先の授業展開で活かせるようにする。
第14回	学習プログラムの企画と展開 (第5章・第6章)	事前学習	教科書第5・6章を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教科書と配付資料から学習プログラムづくりの基本をふりかえり、演習課題①に取り組む。
第15回	学習講座のデザイン① 学習課題の把握と企画	事前学習	これまでの授業で取り扱った「学習課題の設定」を意識しながら、演習課題①の成果を準備して臨む。
		事後学習	授業内の発表と意見交換をもとに、学習プログラム企画の基礎を自分のものとし、第17回の授業に活かせるようにする。
第16回	生涯学習支援の事例に学ぶ① 例：ジェンダー ※第16回から27回までのいずれかで、必要に応じて学外授業の実施あるいは外部講師を招いてより広い視野から理解を深められるような授業展開の可能性もある	事前学習	第4回から第9回で取り扱った事例をふりかえり、特に関心をもった内容を説明できるようにして臨む。
		事後学習	指定した実践記録を読み込み、生涯学習支援という視点からレジメにまとめ、受講生に報告できるようにする(演習課題②)。
第17回	学習講座のデザイン② 学習空間と環境の設計	事前学習	これまでの授業で取り扱った「学習環境・空間デザイン」を意識しながら、演習課題①の成果を準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、学習プログラムの展開方法を自分のものとし、第19回の授業に活かせるようにする。
第18回	生涯学習支援の事例に学ぶ② 例：在住外国人	事前学習	演習課題②として指定した実践記録を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	取り扱った事例から様々な場面での生涯学習支援の知識・方法をふりかえる。
第19回	学習講座のデザイン③ 広報のあり方	事前学習	これまでの授業で取り扱った「学習者の学習方法」を意識しながら、演習課題①の成果を準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、学習プログラムの展開方法を自分のものとし、第21回の授業に活かせるようにする。
第20回	生涯学習支援の事例に学ぶ③ 例：ボランティア活動	事前学習	演習課題②として指定した実践記録を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	取り扱った事例から様々な場面での生涯学習支援の知識・方法をふりかえる。
第21回	学習講座のデザイン④ 企画書の作成	事前学習	第15回・17回・19回の共同検討の内容を意識しながら、演習課題①の成果をレポートとして提出できるよう準備して臨む。
		事後学習	身につけた学習プログラム企画の知見(企画書の書き方含む)を、卒業後の实际生活の場面や職場等において応用できるようにする。
第22回	生涯学習支援の事例に学ぶ④ 例：職業研修	事前学習	演習課題②として指定した実践記録を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	取り扱った事例から様々な場面での生涯学習支援の知識・方法をふりかえる。

第23回	実際の学習講座の参画体験① 事例の持ち寄り	事前学習	演習課題③として、実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場を、受講生に報告できるよう準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、受講生が実際どのような生涯学習の実践に参加・体験してきたかを共有し、期末レポート作成に向けた準備を行う。
第24回	学習支援の実践方法の体験① 参加型学習	事前学習	演習課題①でまとめた学習プログラム企画を読み込み、学習支援者としてどのような学習方法が必要であるかを検討して臨む。
		事後学習	授業内で体験した具体的な参加型学習の技法等を、卒業後の实际生活の場面や職場等において応用できるようにする。
第25回	実際の学習講座の参画体験② 内容の検討	事前学習	演習課題③として、実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場で行われていた方法を、受講生に報告できるよう準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、実際どのように生涯学習支援が実践されていたかを検討し、期末レポートに向け準備をする。
第26回	学習支援の実践方法の体験② ファシリテーション	事前学習	演習課題①でまとめた学習プログラム企画を読み込み、学習支援者としてどのような学習方法が必要であるかを検討して臨む。
		事後学習	授業内で体験した具体的なファシリテーション技法等を、卒業後の实际生活の場面や職場等において応用できるようにする。
第27回	実際の学習講座の参画体験③ 課題の抽出	事前学習	演習課題③として、実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場の課題を報告できるよう準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、生涯学習支援上の課題を検討し、期末レポートに向けた準備をする。
第28回	学習の評価（第7章）、学習支援者の役割（第8章）	事前学習	演習課題①②③の成果をふりかえり、教科書第7・8・9章を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、生涯学習を評価する意味と課題、学習支援者が大切にしておきたいことがらを説明できるようにする。
第29回	学習支援者の力量形成を支えるコミュニティとネットワーク（第9章）	事前学習	これまでの学習内容をふりかえり、卒業後の实际生活の場面や職場等ではあなたは学習支援者としてどのようなキャリアを展望し得るかを説明できるようにして臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、学習支援者としてのキャリアやそこでの力量形成の方法、就職のあり方などを説明できるようにする。
第30回	まとめ：受講者一人ひとりの生涯学習デザイン	事前学習	第23回・25回・27回の共同検討の内容を意識しながら、演習課題③の成果を期末レポートとして提出できるよう準備して臨む。
		事後学習	受講生相互の講評のもと、この授業で学んできたことをこれからの生活においてどのように生かしていくかを考え、実践する。